Going! PCO

熊本
募集目標達成に向け識能強化教育
部外講師を招へいし広報官等を対象に実施

熊本地方協力本部は5月18日、講師としてジブラルタ生命株式会社セミナーインストラクター今村誠氏を招へいし「民間企業と自衛隊の処遇の違い」と題して、広報官などを対象に識能強化教育を実施しました。

教育内容は、自衛隊員が在職中に受ける福利厚生が民間企業とどれだけ違うのかに重点が置かれ、われわれ隊員が何気なく受けている福利厚生が民間企業と比べてどれだけ恵まれているかを理解できる内容となっていました。

その中で、自衛隊員の生涯収入は熊本県の平均生涯収入と比較して1億円程度多く、退職金に至っては約2倍多いとの話を聞くと広報官などは驚いた様子でメモを取っていました。

また、いざという時の医療費や退職後の年金についてもさまざまな優遇施策があることを知り、広報官自身にとっても非常にためになる教育となりました。

本教育において得た知識は、募集対象者などへ自衛隊への入隊を勧めるための一つの武器として大いに効果的なものとなると共に、募集対象者などの保護者に対する安心感の付与に非常に効果のあるものとなります。

参加した広報官からは「初めて知ることばかりで、自衛隊に全く興味がない子でもこれだけの充実した福利厚生制度に興味をもつ子もいるかもしれない」との感想があり、広報官にとって自衛隊をより魅力的にPRするための有意義な識能強化となりました。

広報官等を対象に識能強化教育

京都
高校3年生170人に対し防災講話
災害派遣活動と日頃の準備の大切さを伝える

京都地方協力本部京都地区隊は6月5日と6日の両日、京都市伏見区の京都市立京都工学院高等学校において3年生170人に対し、防災講話を実施しました。

同講話は、昨年度同校のフロンティア理数科の生徒を対象として実施した災害派遣に携わった隊員の講話が大変好評で、今年度は同学年の全生徒に聴かせたいという学校側の要望により実施しました。

講話の前半は、自衛隊の災害派遣について紹介し、特に東日本大震災における活動映像を放映すると、生徒たちは真剣な眼差しで映像に見入り、自衛隊の役割、仕事内容などについて理解を深めた様子でした。

後半は、東日本大震災災害派遣で現地にて活動した隊員の講話を実施。「災害派遣での仕事内容等」の体験談や「職業人としてどのようなプロ意識で取り組んでいるのか」「生徒へのメッセージ」などについて講話をとおし、多くの生徒に災害現場での自衛隊の活動および日頃からの備えの大切さを伝えることができました。

参加した生徒からは「自衛隊の活動が理解できた」「災害現場で活動された自衛官のナマの話が聞けてよかった」「防災について意識を高め、いざという時に対応したい」など多くの感想が寄せられました。

また学校の先生からは「防災講話を通じてプロ意識について聞かせることができて良かった」「今年度冬頃に2年生に対してもお願いします」などの言葉をいただきました。

防災講話に聞き入る生徒たち

宮城
予備自衛官が5日間招集訓練に参加
懇談で現職と予備自衛官が相互理解を深化

宮城地方協力本部は5月25日から29日までの間、陸上自衛隊船岡駐屯地において、第301水際障害中隊が担任した予備自衛官5日間招集訓練を支援しました。

今年度13回予定している5日間召集訓練の初回で66人が参加しました。

招集訓練の初日は、地本による予備自衛官等制度教育および即応予備自衛官有資格者への志願勧誘が行われました。

また、今回から新たに現職と予備自衛官との懇談が行われ、互いの理解を深める良い機会となりました。

訓練最終日には総監顕彰状の表彰伝達式が実施され、諏訪本部長から最終任期満了を迎えた7人の方に伝達を行い、その栄誉を称えました。

諏訪本部長からは、昨今の日本を巡る安全保障環境の厳しい状況や国内で地震などの災害が多くなってきている現状を踏まえ「われわれ現職や予備自衛官に対する国民の期待はますます高くなってきている。いつでも任務に応ずることができるよう物心共に備えを確かなものにしてもらいたい」と訓示をしました。

現職自衛官と予備自衛官の懇談

岩手
体験搭乗などを通して自衛隊を理解
初めての体験に緊張しつつ驚きと興奮

岩手地方協力本部は5月20日、海上自衛隊八戸航空基地（青森県八戸市）において、募集対象者等23人に対し、哨戒機P－3Cの体験搭乗を実施しました。

当日はあいにくの曇り模様により飛行中止となり、地上滑走による体験搭乗となりましたが、参加者は初めて搭乗する哨戒機に驚きと興奮を隠せない様子で搭乗を楽しんでいました。

体験搭乗では、実際に飛び立つかのような迫力あるスピードやGを驚きながら体感し、また機内の器材などについて搭乗員から説明を受けた際には積極的に質問するなど、哨戒機に対する理解を深めていました。

体験搭乗後は、広報資料館、化学消防車や航空管制塔の見学を行い、自衛隊の幅広い業務について理解を深めながら、自衛隊で勤務する将来像に思いを巡らせている様子でした。

参加者からは「地上滑走のみでしたが、迫力あるスピードを体感できて楽しかった」「いろいろな職種があることを知ることができ、とても勉強になった」など多くの感想が寄せられました。

また、岩手地方協力本部は6月3日、陸上自衛隊岩手駐屯地（岩手県滝沢市）において、陸上自衛隊東北方面航空隊ヘリコプター隊の支援を受けて、多用途ヘリコプターUH－1Jの体験搭乗を実施しました。

台風2号などの影響により実施が危ぶまれていましたが当日は計画どおり実施することができました。本体験搭乗には、募集対象者、募集・援護協力者など61人が参加しました。

参加者は、搭乗前教育を受けた後、岩手駐屯地を離陸後、眼下に広がる岩手山を眺めながら盛岡市上空で折り返す約10分間の空中散歩を満喫しました。

やや緊張した面持ちで乗り込んだ参加者も着陸後は皆満面の笑みに変わり満足した様子で降機してくる姿がとても印象的でした。

今回初の試みとして、岩手地本オリジナルのドックタグを作成し搭乗記念としてプレゼントしたところ、予想以上の好評と感謝の言葉をいただきました。

哨戒機を背景に記念撮影

搭乗記念のドックタグ

福井
「募集広報ポスター選考会」表彰式
地元の専門学校学生に毎年作成を依頼

福井地方協力本部は5月12日、本部庁舎（春山合同庁舎）において「令和5年度自衛隊福井地方協力本部募集広報ポスター選考会」の表彰式を実施しました。

これは、福井情報ITクリエイター専門学校（大原学園福井校）の学生に募集広報ポスターの作成を毎年依頼しているもので、学校側も本選考会を学生の能力向上の機会と捉えて、授業の一環としています。今年も多くの作品から、地本隊員および福井県の入隊・入校予定者による投票の結果、中村貴二さんの作品が最優秀賞に、深田怜愛さんおよび川端要太さんの作品が優秀賞として選出されました。

表彰式当日は、同専門学校の多田慶一郎講師の引率のもと、受賞した3人は緊張した様子で表彰式に参加しました。

表彰式後、受賞した3人は「パズルのように組み合わさって組織力を発揮する自衛隊をイメージしました（中村さん）」「自衛隊のイメージである迫力ある迷彩柄を用いて、全体的に目を惹くようなデザインにしました（深田さん）」「選ばれて大変嬉しい。街中で足を止めて、自衛隊に興味を持ってもらえるよう工夫しました（川端さん）」と作品に込めた思いを述べていました。

最優秀賞作品

受賞者とともに記念撮影

熊本
令和5年度熊本県自衛官募集会議開催
県と協力して自衛官募集態勢を促進

熊本地方協力本部は5月24日、熊本県が主催する令和5年度熊本県自衛官募集会議へ参加すると共に、会議参加者を対象とした部隊研修を実施しました。

熊本県自衛官募集会議は、自衛官募集事務を行う県内市町村職員および募集相談員の97人に対して、募集業務および自衛隊に関する概要説明を行い、自衛官募集の現状を認識してもらうと共に各自治体などと自衛隊との関係の維持強化を目的として実施されたものです。

会議は熊本県庁で行われ、はじめに県庁の担当職員が募集事務の状況についての説明を行い、続いて熊本地本から自衛隊の任務および各種活動紹介、自衛官募集の案内および募集事務の処理要領などについて説明を行いました。

会議終了後は、陸上自衛隊高遊原分屯地に場所を移し、高遊原分屯地および航空隊の概要説明を受けた後、西部方面航空隊の支援を得て、CH－47JAヘリコプターでの体験搭乗、施設・装備品見学、生活環境の見学などの部隊研修を行いました。

特に生活環境の見学では、食堂、浴場、営内隊舎などを案内して隊員が普段生活している様子を感じてもらうと共に、充実した福利厚生には高い関心が寄せられていました。

研修を終えて、市町村職員からは「充実した部隊研修に参加できて良かったです」との感想や募集相談員からは「今回の募集会議および部隊研修を通して知り得た知識を活用して、自衛隊に興味のありそうな学生などに受験を提案しやすくなりました」などの言葉をいただき、今後、各自治体などから多くの志願者を獲得することができると強く期待しております。

救難消防車（空港用化学消防車）の見学

静岡
薬科大生が「薬剤官」の職務を学ぶ
懇談と職場見学を通して理解を深化

静岡地方協力本部静岡募集案内所は5月9日、自衛隊富士病院（駿東郡小山町）の協力を得て、薬剤官に関心を持つ学生との懇談会と職場見学を行いました。

薬剤官とは自衛隊に所属する薬剤師のことで、調剤や服薬指導を行い自衛隊員の健康管理全般を担っているほか、災害派遣や国際緊急援助活動などにおいて医療支援を行う任務を持っています。

同病院は自衛隊員だけでなく一般市民の診療も行っており、内科、外科、整形外科、歯科に加え、放射線検査・臨床検査も実施しています。院内には薬局が完備されており、3人の薬剤官が約300種類の薬を管理しています。

当日は薬科大学5年生の中田慶丞さんが、薬剤官の門内豊3等陸佐などと懇談した後、職場の見学を行いました。

懇談では、門内3佐から薬剤官としての仕事や幹部候補生学校に入校してから現在までの経験談のほか、自衛官としての訓練を受け迷彩服の上に白衣を着て仕事をする薬剤官と一般の薬剤師との違いについても説明を受けました。

その後、多くの薬や専門書の並んだ薬剤官の勤務場所を見学し、自衛隊で働く薬剤官の仕事に理解を深めていました。

職場見学する中田さん（右）

富山
臨機応変な対応で人命救助に貢献
列車火災に遭遇し冷静に避難誘導

富山地方協力本部富山募集案内所の広報官・豊田あい2等陸曹は、5月26日夕方に富山県上市町で発生した富山地方鉄道の列車火災で、乗客の避難誘導の先頭に立ち人命救助に貢献したとして、6月8日、上市警察署長から感謝状を授与されました。

豊田2曹は同列車に乗客として乗車中に、列車火災に遭遇しました。走行中に車外から炎が出て窓の高さまで上がる緊迫した状況の中、豊田2曹は緊急停止直後に開いた車両のドアから約1㍍下の地面に飛び降りて、他の乗客の降車を手伝い避難させました。

また、身体が不自由な乗客もおり他の男性乗客と協力して抱きかかえて救助し、安全な場所まで誘導しました。乗客乗員8人にけがはありませんでした。

贈呈式後の懇談で豊田2曹は当時を振り返り「火災に恐怖や焦りも感じましたが、使命感をもって、誰ひとり欠けることなく全員が無事にけがなく避難誘導することを心掛けました」「今自分は何をすべきかを冷静に判断しとっさに行動できました。とにかく全員無事で何よりでした」と笑顔で語りました。

警察署長からは「臨機応変に判断する力が今回の救助に活かされた好例で頭が下がります」と敬意を表されました。

感謝状を授与される豊田2曹

京都
初のオリジナル広報キャラクター発表
開部70周年に先立ち応募54作品から選出

京都地方協力本部はこのほど、各種活動をPRするオリジナルの広報キャラクターを発表しました。

これは、来たる令和8年に京都地本の開部70周年を迎えるのに先立ち、府民の方に今後もさらに京都地本に親しんでいただけるよう、令和4年7月から企画を立ち上げ、地本公式ホームページとSNSによりキャラクターのデザインとその愛称を広く公募したもので、さまざまなモチーフが取り入れられた計54作品に及ぶ力作の応募がありました。

最終的に「しーくんとミズナギ教官」が選出されました。「しーくんとミズナギ教官」は「顔がこわい新人隊員とかわいい顔だけど筋肉ムキムキな教官」のコンビという設定で、京都の有名な伝説にある酒呑童子（しゅてんどうじ）という鬼と、京都府の鳥であるオオミズナギドリをモチーフに制作されました。

新しい京都地本の顔となるこのコンビは、和菓子好きや趣味が筋トレといった細かい設定なども含めて京都の自衛隊らしいキャラクターで、府民の方々に親しんでいただくと共に、自衛隊に対する理解を深める架け橋となるよう、今後の活躍を楽しみにしています。

しーくん（左）とミズナギ教官